

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「持続可能な社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

労働人口減少を克服する“社会活動寿命”の延伸と人の生産性を高める「知」の拡張の実現

3. 研究開発課題名

「身体知」の可視化と伝承

4. 研究開発代表者名（機関名・役職は評価時点）

小池 康晴（東京工業大学 科学技術創成研究院 教授）

5. 評価結果

本研究開発課題の探索研究期間において、当初の目標として設定した、研磨技能における上腕の筋肉の動きの特徴の抽出および技能伝承方法の実証に挑戦したことが高く評価された。特に研磨の熟練技能者の作業時の筋シナジーに注目し、これを初心者と比較し、その差を数値として提示することで初心者が短期間で技術を習得する可能性を示した。また、研究開発代表者は、コロナ禍においても目標達成に向けて技術者と連携することで適切な実施体制を構築し、全体の課題の把握や解決に向けて、精力的に尽力した。さらに、日本のものづくりを支える「匠の技」の伝承・次世代の育成という社会・産業界のニーズを的確に捉え、「技術の抽出・保存から伝承まで」一続きの流れの構築に向けて研究開発を進めた。

以上のような、探索研究期間での活動および成果によって、当初の計画は概ね順調に進捗したと判断され、今後の研究開発の進展・展開についても大きな期待が持たれる。

以上